

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0372101006		
法人名	特定非営利活動法人 今が一番館		
事業所名	グループホーム 今が一番館 (東棟)		
所在地	〒020-0624 岩手県滝沢市妻の神157-3		
自己評価作成日	令和7年7月15日	評価結果市町村受理日	令和7年11月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・個別ケアの徹底 ・ADLの低下予防

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和7年8月27日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、田園風景の残る郊外に位置し、以前の2つのユニットから1ユニットとデイサービスに衣替えされている。理念「安心して下さい。いつもあなたの傍に私達がいます。」を基本に、全職員で利用者が自由に日常生活を送れるよう細かくチェックし、質の高い支援に取り組んでいる。開設から20年以上経過しており、開所時からの職員をはじめ、経験の長い職員もあり、2匹の猫も職員と同様にいつも入居者の傍にいて家族同然の存在として安心、癒しの存在となっている。利用者日々の生活の状況を職員が手書きで作成し、写真と施設長のコメントを付けて毎月「お便り」として家族にお届けしている。家族からは、利用者の様子を知れる事ができると大変好評を得ている。コロナ禍でご家族との面会や外出の機会が制限されてきたが、事業所としても地域行事の見学やオレンジカフェやスローショッピングなどの活動に参加し、外出機会の確保に努めている。更にADLの低下予防と下肢の筋力低下を防ぐ為に、利用者全員が昼食前に軽体操を実施したり、利用者個々に寄り添い廊下や広い敷地内を歩き、日々機能維持の支援に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる(参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている(参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある(参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている(参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている(参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている(参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている(参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている(参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている(参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている(参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている(参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 今が一番館 (東棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	基本理念(いつもあなたの傍に私たちがいます)の通り、利用者との間は家族同然。	事業所理念は開設当時に職員が時間をかけて策定したもので、ユニットホール壁面に掲示し、毎朝の申し送りで理念に沿った支援ができているか確認、共有している。職員は個々の利用者寄り添い、見守りと支援に努めている。また、毎年職員一人ひとりが業務目標を設定し、リーダー、施設長が進捗状況を確認し、半年毎と1年毎に評価し、見直しを図りながら次のステップに繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域ネットワーク会議やその他の事業所や高齢者にまつわる研修には極力参加して、世情を理解している。	町内会に加入し、地域の方々には事業所の避難訓練等の行事に参加していただいている。近隣に民家が少なく頻りに交流する機会は少ないが、月1回地域の店舗の「結いの蔵」で開催される「オレンジカフェ」と称する認知症カフェを運営している。今後コープ牧野林で実施されるスローショッピングに利用者の参加を検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	グループホームそれぞれで地域との関わりを持ち、認知症カフェ等で交流を持ち、理解している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	ご家族、民生委員、包括、地域住民それぞれの立場からのご意見を頂けるため気づきも多い。自治会の方が避難訓練に参加して頂けるようになり、地域の方に一番館を知ってもらえるきっかけにもなっている。	運営推進会議のメンバーは、家族、民生委員、地域包括支援センター、地域住民(1名は自治会長)、事業所職員で構成され、事業所の活動報告、利用者の生活状況、ヒヤリハット事例等を報告し、意見を頂きサービスの向上に活かしている。会議を通し、事業所を知っていただく良い機会となり、今年は避難訓練に推進会議メンバーの方々から協力を得て、次に繋がる足がかりとなったとしている。職員には勉強会等で会議内容を報告し、共有している。	

事業所名 : グループホーム 今が一番館 (東棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	市の認知症講座等への協力をしている。	地域包括支援センター職員を通じて、情報や助言を頂いており、事業所としても、市主催の講座、街かど相談室、ビッググループでのイベントにできる限り協力している。利用者の要介護認定申請の手続きや各種手続きは、市の担当課に事業所職員が直接出向いて行っており、市の職員とは顔馴染みとなっている。年に数回介護相談員が来所し、利用者と面談を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	3か月に一回委員会を開催し適切なケアが行われているか、問題点があれば解決するため話し合いを行っている。昨年は外部講師を招き施設内研修を行っている。	身体拘束廃止の指針を作成し、3か月毎に会議に併せて虐待を含めた研修会を開催し、職員は身体拘束の内容と弊害をしっかりと理解し、業務に取り組んでいる。松戸市発行のチェックリストを利用し、自己チェックを行って振り返りしている。月1回開催される勉強会の前にも「身体拘束廃止岩手宣言」を唱和し、理解を深めながらケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	3か月に一回委員会を開催し適切なケアが行われているか、問題点があれば解決するため話し合いを行っている。昨年は外部講師を招き施設内研修を行っている。また、自身を振り返るために虐待防止に向けた自己チェックリストを実施している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	定められた制度の中で話し合い、職員全員に開示し、全員が理解し、活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	利用者一人残らず事業所の説明を理解・納得し、一度のトラブルもない。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 今が一番館 (東棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営に変化があった場合は、即時に知らせ、了解を頂いており、円満な運営である。	毎月1回施設長のコメントとともに、利用者一人ひとりの生活状況や行事の様子、食事、通院状況を手書きで作成した「お便り」を送り、意見や要望を頂きやすいようにしている。また面会時や3カ月毎の介護計画の見直し時などに家族の要望や意見を伺うなど、聞きやすく、話し易い関係づくりに努めている。家族の要望で、筋力低下予防のため、筋力トレーニングをプランに取り入れている。	事業所では機会を捉え、家族が要望や意見を話しやすいよう配慮して関係性を築いています。家族の意見や要望をより一層把握するためには、事業所での家族アンケートを実施することも一つの方法と考えられます。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	就業規則等、職員にはきっちり運営の方針を伝え、理解してもらっている。	施設長は、朝の申し送り時や月1回開催される「勉強会」で職員の意見や要望を聞いている。個人面談は実施していないが、日々の業務の中で聞いたり、夜間業務時にはプライベートな事にも話が及ぶこともある。資格取得の研修会への参加は、管理者が積極的に奨励している。コロナ禍前に併設のデイサービス事業所で実施していた施設間交換実習の再開を望む声が職員からある。	管理者は、コロナ禍前に法人内のデイサービスで実施していた他事業所職員との交換研修の再開を模索しております。今後も法人の姿勢として、職員が切磋琢磨、研鑽を深める機会を増やしていくことを期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	利用者の要望をうまく受け止められる職員ということでは、誰も自慢できる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	高齢の職員等も内部研修はもちろん、外部の研修も吟味しつつ、勉強をして貰っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	同業者との連携も持ちつ持たれつ、お互い刺激し合っている。		

事業所名 : グループホーム 今が一番館 (東棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	安心して暮らして頂けるよう本人の話に耳を傾け少しずつ信頼関係を築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	困っていること、不安、思い等に耳を傾け安心してご家族を預けて頂けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人、家族等からの情報や入居前に関わった方々からの情報も含め必要なサービスがグループホームで提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	利用者一人ひとりのペースを大切にしながら、やりたい事や出来る事を見極め、一日の生活の中で利用者同士助け合いながら送れるよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	病院によっては家族が通院同行することもあり、職員が困ったことがあれば家族へ相談するなど、一緒に介護出来る関係づくりを心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	現在、家族以外では中々そのような付き合いのある方はおられないが、開所当時から来てくれる理容師は馴染みとなっている方もいる。	入居時にセンター方式で、利用者の馴染みの人や場所を把握している。家族以外の方が訪れることはなく、月1回来所する理容師、通院している医師、看護師、「オレンジカフェ」で会う方が馴染みとなっている。家族とは一緒に外食、外泊、墓参りをする。今後は「オレンジカフェ」だけではなく「ふるさと訪問」や「スローショッピング」に出かけ、新たな馴染みの場所、人との関係を作っていきたいとしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	共有スペースでは仲の良い利用者同士で座れるよう配慮したり、家事を一緒にしてもらったり、職員が間に入り会話のきっかけ作りをしたりしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退居後、様子を伺ったり、ご相談頂いた場合はご要望に沿えるよう努めている。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	「家に帰りたい」「〇〇に行きたい」等の訴えがある際には本人の話に耳を傾け思いを聞いている。どうしても意向に沿えない場合は丁寧な説明を心掛けている。	ほとんどの利用者は、言葉による意思疎通ができることもあり、職員は、日々の生活の中で傾聴を心掛け、意向や要望の把握に努めている。利用者の意向をタブレットに記録し申し送り等で共有を図り、実現できるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	以前隣のデイサービスを利用されていた方などは家族以外にデイサービス職員からも聞き取りを行い楽しく生活して頂けるよう、運動や家事のお手伝い等をしてもらっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	それぞれの過ごし方に出来るだけ合わせている。(塗り絵が好きな方には様々な塗り絵を用意したり、時代劇が好きな方のために録画したり)その日の状態を見極め、出来る事を手伝ってもらうなどしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	カンファレンスや朝の申し送りなどで意見交換し本人には会話の中から、ご家族には面会時や電話で要望等を伺っている。出来るだけ、要望等も含めたケアプランを作成できるよう努めている。	ケアプランは短期3ヵ月、長期6ヵ月毎に見直しを行っている。ケアマネジャーが中心となって、朝の申し送りやカンファレンスで入居者、ご家族の要望、意向を取り入れ、職員の意見を取りまとめて作成している。できたプランは再度家族に確認していただいている。	

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 今が一番館 (東棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	職員間で情報共有し話し合い実践している。又どのように対応したらよいか等意見を出し合い次の計画につなげている。(病気、体重減少、筋力アップなど個別ケアの実践)		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	それぞれのニーズに合わせた個別ケアが出来るよう、職員間で情報共有し取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域のイベント見学、季節を感じられるレクリエーション(お花見、栗拾い、干し柿作り等)すぐに忘れてしまってもその時、その瞬間に楽しいと思ってくれるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	看護師にもご家族の希望を伝え、受診時に主治医へ相談している。出来るだけ本人やご家族の意に沿えるよう努めている。(薬の調整、院外処方薬局等含む)	入居者のほとんどが、入居前のかかりつけ医を受診しているが、家族の了解を得て協力医に変更していただいた方もいる。通院時は非常勤の看護師が同行し、日頃の状態を伝えたり、薬の調整や家族の要望などを相談している。結果はタブレットに記録し、家族にお知らせしている。処方薬は薬局に依頼し、個別に分包された薬を配達してもらっている。緊急時には協力医の判断を得て対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	体調の変化や気になる皮膚状態など看護師に報告、相談し経過をみたり受診につなげたりできている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	経過や状態など家族や病院と連絡を取り合い情報交換し状況把握に努めている。状態によっては関係者や家族と細目に連絡を取り合いその方に合った施設入所が出来るよう努めている。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 今が一番館 (東棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	支援内容について説明しご理解頂けるよう努めている。入居時や要所要所で伝えていくようにしている。	看取りに関する指針を作成し、以前は看取りを行っていたが現在は行っていない。入居の際に本人、家族に、重度化と終末期における事業所の対応を説明し、了解を得ている。介護度3を目安に医師の判断を仰ぎ、家族に施設変更について提案しながら、可能な限り適切な支援がなされるよう心掛けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	コロナ前は急変時AEDの使い方等の訓練を行っていたが現在はまだ行っていない。いつ何時急変や事故が発生するかわからないため今後は全ての職員が慌てずに応急手当が出来るようにしていく必要がある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	自治会の方の参加協力の昼想定避難訓練と夜間想定避難訓練を行っている。職員はシフトを調整し順に経験している。	ハザードマップ上は、岩手山噴火に伴う降灰エリアとなっている。年2回の避難訓練では、消防署立ち合いの下、昼と夜の火災想定訓練を実施し、今年からは自治会の方々の協力もいただいている。昨年度までの夜間での訓練で把握した課題から、避難経路等の照明を多くする等の見直しを行っている。2回目は9月に夜間火災訓練を計画しており、自治会の方々に見守りの協力を要請している。備蓄は一週間分を備え、業務継続計画(BCP)も作成し非常時での対応が滞ることのないようにしている。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	職員は利用者様の話に耳を傾け、出来るだけ本人の意に沿えるような会話や対応を心掛けている。	利用者への言葉かけやトイレ介助、入浴時など、日々の生活の中で、誇りやプライバシーを損ねないように配慮している。耳の遠い利用者には耳元で話し、気になる声掛けが見られた場合には、適時施設長が声掛けの配慮、工夫を助言している。居室に入室の際には声掛けを心掛け、利用者の人格の尊重に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	直接ご本からがどうしたい、こうしたいといった発言はほとんどないため、会話の中からヒントを得て、自己決定出来るような聞き方を心掛けている。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 今が一番館 (東棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	その方のペースを優先しやりたい事が出来るようその都度支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	自分で選べる方には伺って選んでもらっている。他の方が職員が選び季節に合った衣類を選び着て頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食べたい物を聞いてメニューに入れたり、主に片付けを手伝ってもらっているが、食事の下準備も出来る方には手伝ってもらうこともある。	食事は朝のみ宅食サービスを利用し、昼、夕食は日勤の担当職員が冷蔵庫にある食材を見てメニューを決め、調理し提供している。食材は利用者と職員と一緒に近くの大型スーパーマーケットで購入している。誕生会等の行事食は、利用者の好みを伺い提供している。お寿司、お刺身を希望される方が多く、好評である。利用者は茶碗拭きや下膳など、できることを手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	利用者様に合った量(主食のグラム数、副食の形状)や一日の水分量を細目にチェックし職員間で共有、大体の設定量を確保できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	義歯の方、自分の歯の方に合わせている。歯周病など、出血や臭いがある方は歯科受診し、その方に合った口腔ケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	リハパンや尿取りパッドを使用している方がほとんどだが、時間でトイレの声掛けをしてトイレでの排泄を支援している。	利用者の排泄状況をチェックし、適時の声掛け誘導を行い、トイレでの排泄を支援している。布パンツを使用している方が1名、自由にトイレ利用の方が3名いるが、失敗することも多く、職員は利用者に合わせてプライドに配慮した声掛け、支援を行っている。ほとんどの利用者は、リハビリパンツやパット等、状態に合わせたものを使用している。自立へ改善することは難しい状況にあり、現状維持に努めている。	

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 今が一番館 (東棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	水分不足は便秘を助長するため、一日の水分摂取量がある程度設定し提供しているがあまり飲まない方やその日によって摂取量が足りない方には声掛けし水分摂取してもらっている。排便日数も記録し服薬もしてもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそうした支援をしている。	一人ひとりの希望に合わせる事は難しいがタイミングを見て入浴が好きな方に楽しんで頂けるようにしている。又、皮膚トラブルにつなげない様、コンスタントに入浴してもらい皮膚の状態を職員で共有している。	入浴は週3回、異性職員による介助もあるが、随時了解を得ながら支援している。入浴しない日には、足浴をし、水虫対策として薬の塗布や靴下を取り変えている。入浴の介助をしながら皮膚の状態を確認し、保湿剤を塗るなどの対応を行っている。入浴を嫌がる方はおらず、歌をうたったり昔話をするなど、くつろぎながら入浴している。入浴剤は使用していないが、季節に合わせ、菖蒲湯や柚子湯にし、入浴を楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	眠そうにしていたり、ホールでテーブルに伏している方には居室で休んでもらうよう声掛けをしている。また起床時には寝具を整え、居室内の寒暖に気を付け安眠できるよう気を付けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	個人の処方箋に職員全員で目を通して、変更があると看護師より説明があり、情報の共有をしている。症状に変化がある場合は看護師に報告し主治医へつなげている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	コロナ禍により外出出来なかった事もありイベントに合わせての外出も心掛けている。日常は食器拭きや洗濯たたみなどの家事、塗り絵やパズルなど、本人のやれる事、やりたい事を支援している。		

事業所名 : グループホーム 今が一番館 (東棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	天気の良い日はホームの敷地内ではあるが花を見たり、秋には栗拾いをしたり、外気浴をしている。チャグチャグ馬っこや花見などドライブレクも再開している。ご家族の希望で外泊や外出も徐々に増えて来ている。	天気の良い日には戸外に出て、事業所の敷地内の花を見たり、秋には栗拾いをするなど外気浴を楽しんでいる。また家族と共に外出し、外食、外泊する利用者も増えている。お盆には、家族が迎えに来て墓参りに行ったり、3泊4日の外泊をし、十和田湖に行ってきた方もいる。事業所でも季節にあわせ、春には花見に出かけたり、チャグチャグ馬っこを見に行ったりと戸外に出かけられるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご本人がお金を持っていないが、施設に移動販売が来た時には皆さんで食べる食品やおやつなどを選んだり、支払いをして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	自ら電話を掛けたり、手紙を書く方はいないが、ご家族からの電話はおつながしている。手紙が届いた時にはお渡しして見てもらい、部屋に飾ったり枕元に置いたりしていつでも見られるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ホールのテーブルには季節の花を飾ったり廊下には季節ごとの飾りつけをするなどし、季節を感じてもらえるようにしている。又、温度、湿度計で快適に過ごして頂けるようにしている。	共用スペースの食堂兼ホールにはテーブルが2台あり、座る椅子は決まっています、利用者一人ひとりが好きなようにゆったり過ごしている。季節を感じる事ができるよう「うちわ」が装飾として飾られたり、季節の花がテーブルに活けられ、壁面には普段の活動で制作した塗り絵の作品が掲示されている。室内温度は、エアコン、加湿器で調整され、快適に過ごせる環境が整備されている。10畳ほどの小上がりもあり、2匹の猫が入居者の傍にいて癒しの存在となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ホールでは利用者同士楽しくお話ししたり自分でパズルを持ってきてやったり、それぞれ過ごされている。職員とゲームをしたり一緒に塗り絵をしたりもするが一人の時間も必要な時は様子を見て休んで頂いたり、配慮している。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 今が一番館 (東棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過ご せるような工夫をしている。	使い慣れたものや家族との思いでの物、写真な どを居室に置いてもらっている。	居室にはベッド、写真等を貼るボード、温風ヒー ター、カーテンで仕切られたクローゼットが備え 付けられ、衣装ケース、テレビ等の慣れ親しんだ 物を持ち込み、利用者が居心地よく過ごせるよう 室内をセッティングしている。夏の室温は、廊下に 設置してある2台のエアコンと扇風機4台で涼が 取れ、快適に過ごせるよう調節されている。各居 室の入口には折り紙で折った輪飾り、その下 には年輪の見える木材に利用者の名前が書かれ た名札が取り付けられている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づ くり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わ かること」を活かして、安全かつできるだけ 自立した生活が送れるように工夫してい る。	利用者のそれぞれ出来る部分をご自分でやって 頂いている。食事、トイレ等出来る範囲でやって 頂き、見守り、声掛けでいつでも傍に いることで安心して頂けるようにしている。立位、歩行不安 定な方には離床センサーを設置しすぐ駆け付け るようにしている。(ご家族には許可をもらって いる。)		